

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071101770		
法人名	有限会社 めぐみ		
事業所名	グループホーム のため		
所在地	〒811-1347 福岡県福岡市南区野多目5丁目20-12	092-565-0300	
自己評価作成日	平成24年10月24日	評価結果確定日	平成24年12月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 24年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切に、入居者と職員の壁を出来るだけなくなるように努めています。また、花や木々を植え、家庭菜園を作り、季節感を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

都市高速沿いで、バス停近くの閑静な住宅街の一角に、民家を改造した家庭的な雰囲気のグループホーム「のため」がある。季節の花が咲く玄関からリビングルームに入ると、利用者と職員の何とも言えない暖かい楽しい会話が聞こえ、自由で、のびのびと、あるがままの関係は、家族の深い信頼に結び付いている。町内会に加入し、地域行事に利用者と職員と一緒に参加し、地域福祉の拠点として活躍が始まっている。利用者の健康管理は、看護師の資格を持つ代表の自宅が隣にあり、協力医療機関の往診や看護師の常勤と合わせ、24時間充実した医療、介護体制が確立されている。開設8年目で、管理者と職員は、常にグループホームの原点に立ち返り、家族や地域住民と連携し、利用者の喜びと、満足を優先した介護サービスの提供を目指す、グループホーム「のため」である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32.33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型施設になったと同時に、スタッフ全員で理念について見直しを行いました。それから、変更はないものの毎年理念の見直しは実施しています。	利用者の安心と尊厳のある生活を守る事、家庭的で落ち着いた居場所の提供、地域住民の一員としてその人らしい生活が送れる介護、地域に開かれたホーム作りを理念に掲げ、朝礼、カンファレンス時に唱和し、職員一人ひとりが理解し、利用者に寄り添いながら利用者本位の介護サービスの提供を目指し、理念に基づいた取り組みを実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への加入。毎年町内の夏祭りには参加させてもらい、出店者としても参加しています。また、毎月1回の町内自主防犯パトロールにも管理者が出席し、交流をはかっています。	町内会の定時総会や校区防災訓練、公園の清掃、夜間の防犯パトロールに管理者が積極的に参加し、地域住民と顔馴染みの関係である。また、地域の夏祭りに出店の依頼があり、フランクフルトの店を出し、利用者も遊びに出かける等、少しずつ交流が深まっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会の中で、民生委員や地域包括支援センターの職員の方達から地域の高齢者の問題や課題等の話しをしていただき、把握するように努めています。また、認知症介護についても会議の中で話しをさせてもらっています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では、毎月のホームでの行事や取り組みについて話しをさせてもらい、入居者の生活状況の報告もしています。また、評価への取り組み状況や評価結果についても報告し、意見をいただいています。	会議は2ヶ月に1回定期的に開催し、家族代表、町内会会長、副会長、民生委員、地域包括支援センター職員が参加している。各委員から情報提供や質問、要望等が出され、ホームからは、状況、行事報告を行っている。町内会からの行事参加の要望に応える等、出された意見は出来るだけ運営に反映させる取り組みがある。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者には、疑問点や不明点がある場合には電話やメールで連絡をとり、アドバイスをもらうようにしています。	ホームの現状報告や課題等、行政担当窓口で電話やメールで相談したり、情報交換やアドバイスをもらうなどの連携が始まっている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状や取り組みを理解してもらい、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の中で研修を行い、職員全体に啓発しています。また、夜間は防犯の為に施錠しますが、日中は施錠せずに入居者や家族等が自由に出入りできるようにしています。	勉強会を開催し、職員は拘束が利用者にも与える影響を理解し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。また、利用者の安全、清潔保持のため、期間を決めて家族の承諾を得た上で、つなぎ服を着用する事もある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を開催し、職員全体で学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症研修の中で権利擁護についても、職員全体で学んでいます。また、ご家族への権利擁護についての説明は契約時に管理者から行っています。	以前、成年後見制度を利用された利用者が存在し、制度については理解している。管理者は、入居時に、パンフレットや資料に基づき、利用者、家族に制度についての説明を行い、職員は定期的に学び、必要な時いつでも支援出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際には、入居者やご家族に対して「契約書」と「重要事項説明書」を声に出して読み上げ、十分な説明を行っています。入居者や家族等からの不安や疑問には具体的に答えるように努めています。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見や要望は、毎日の生活の中で職員一人一人が耳を傾けるようにしています。また、ご家族からの苦情はありませんが、家族の訪問時に話をしたり、なかなか来られない家族の方には管理者から電話をし、話しをしています。そして、地域との交流の場では外部者へ表せる機会を設けています。	利用者、家族の意見や要望を取り入れるために、家族の面会や行事参加、電話等で、利用者の日頃の暮らしぶりや健康状態を報告し、要望を聴き出す努力をしている。また、家族が気楽にホームに立ち寄り話しこんで帰る事もあり、管理者、職員は、家族の心配事や悩みを受け止める事にも努め、家族との信頼関係を深めている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスや勉強会の中で意見を聞くようにしています。そこで出た意見や提案はすぐに話し合い、運営に反映されています。また、毎日の業務の中での気付きも、すぐに管理者に伝えられるようにしています。	職員会議を兼ねたカンファレンス、勉強会を毎月開催し、全職員参加の中で、活発な意見や提案が出され充実した会議になっている。出された意見は検討し、出来るだけホーム運営に反映させる努力をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の努力や実績、勤務状況について把握し、その都度向上心を持って働けるように声をかけをし、評価するように努めています。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除していません。また、職員一人一人が得意分野で能力を發揮できるように努めています。勤務希望も出来る限り聞くようにしています。	歌や料理、工作、園芸等、職員の特技や不得手に配慮し、お互いに助け合い、カバーし合って、伸び伸びと仕事出来る勤務体制や環境を目指し努力している。希望休や勤務時間帯を柔軟に対応し、働きやすい職場となっている。また、職員の採用については、経験や年齢、性別の制限はなく、人物本位で採用している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員の採用時に管理者から入居者に対する人権についての話しをしています。また、カンファレンスや、勉強会の中で人権についての話しもしています。	職員の新人研修で、利用者の人権を尊重するための介護サービスの在り方を学び、利用者が安全で安心して暮らせるよう取り組んでいる。また、朝礼、カンファレンス時に理念を唱和する事で、常に利用者への尊厳について考え、人権を尊重した介護サービスを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人内での合同研修やホームでの委員会を実施しています。また、外部での研修等の内容は伝達講習をしています。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が地域の同業者同士の情報交流会等に参加し、ネットワーク作り努めています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に自宅訪問や面談、ホーム見学を実施しています。そこで、本人の困っている事や、不安な事等に耳を傾け、出来る限り本人の希望を聞くようにしています。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者と同様に、契約前に家族等が困っている事、不安なことや要望等に耳を傾け、関係づくりに努めています。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、本人や家族の生活環境や身体状態等の情報収集や面談を行い、もっとも必要な支援を見極めるようにしています。そこで、ホームが満床であったり、他のサービスが適切だと判断した際には他のサービスを紹介するようにしています。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者との間に出来る限り壁を作らないように努めています。また、入居者から生活の中での知恵を教えてもらったりしています。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	町内での夏祭りや、ホームでの行事への参加を呼びかけ、可能であれば病院受診への同行もお願いし、共に本人を支えていく関係を築くようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を把握するように努め、現在の馴染みの人や場所の情報を提供し、可能であれば、その人や場所へいけるようにしています。また、年賀状のやり取りの援助も行っています。	以前は利用者と一緒に遠方の故郷を訪ねたり、自宅の周囲や行きたい所に同伴する等の支援が出来たが、利用者の重度化に伴い段々と難しくなり、現在は近場の馴染みの場所へのドライブや年賀状のやり取り等で関係継続の支援をしている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握するように努め、プライバシーを保ちながら、部屋に閉じこもりたり孤独にならないように声かけを行っています。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が他施設や病院施設等に転居された場合でも、面会へ行っています。また、必要に応じては本人や家族の相談をきける体制をとっています。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時や面会時に、可能であれば本人から暮らし方等の希望を聞き、不可能であればご家族から聞くようにしています。また、日常の会話や行動や表情から希望や意向を把握するように努めています。	入居前に、利用者や家族から、思いや意向を丁寧に聴き取り、日常生活の中で、会話や独り言、行動、表情等から、利用者の意向の把握に努めている。意向表出が困難になった場合は、過去の記録を見直し、家族やベテラン職員と相談しながら、利用者本位に検討し、思いの実現に向けて努力している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、またはキーパーソンの方から、本人のこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を把握するように努めています。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの一日の過ごし方や、心身状態、現状の有する力等については、1人ひとりの介護日誌に記録し、全職員で把握するように努めています。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見は日常の会話の中から、家族の意見は面会時や、電話で何う等して計画に反映させるようにしています。また、かかりつけの主治医の意見を往診時に伺い、計画に反映させています。	介護計画は、利用者や家族の希望を聴き取り、主治医や関係者と相談し、3ヶ月から6ヶ月の間隔で作成している。毎月カンファレンスを実施し、職員が気付き、意見を出し合い、家族と連携を密に取りながら、利用者の状態に合わせた介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫については、一人ひとりの介護日誌に記録し、朝礼やカンファレンス等で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との交流をはかる敬老会や誕生日会等の行事を企画実践しています。また、その時々ニーズに対応した、通院援助や外出援助、または、ホームの周りでの造園や家庭菜園等を行っています。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握するように努め、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援しています。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の希望に応じて、入居前のかかりつけ医の継続や、ホームの協力医への引き継ぎを行っています。また、緊急時には24時間対応のかかりつけ医に繋げています。受診や通院は出来る限り家族へ同行をお願いしているが、不可能な場合はホーム職員が代行で行っています。	利用者や家族の希望を優先した、かかりつけ医と協力医療機関の受診支援をしている。看護師の資格を持つ代表の住居が隣にあり、24時間緊急時の対応は万全である。また、職員の冷静な判断と俊敏な対応によって、かかりつけ医、看護師との連携を取りながら、利用者の安心した暮らしを守る体制を整えている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日頃から看護職と連携をとれる体制をとっており、気づいた事はすぐに看護職につたえ、適切な受診や看護を受けられるようにしています。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には、着替え等の洗濯物の交換はホームで行い、病院に行った時には病院関係者と情報交換を行い、出来る限り早期退院ができるように支援しています。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針やホームで出来る事については、契約時に説明を行い、同意書をいただいています。また、状態の変化に伴い、その都度家族や緊急時24時間対応の主治医と協議しながら支援していくようにしています。	重度化、看取りに関する指針を作成し、利用者、家族に説明し、同意書を得ている。利用者の重度化に伴い、家族の希望を聴きながら、関係者で話し合い、全員で方針を共有し、出来るだけ希望に沿えるよう取り組んでいる。また、過去に看取りの経験をし、経験を積んだ数名の職員、管理者を中心に、職員の質の向上に努め、重度化に対応出来る体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生に備えて、マニュアルにそって、カンファレンスや勉強会の中で話し合いを行っています。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回(一回は消防署立ち会い)夜間を想定した避難訓練を実施しています。また、町内の緊急時支援体制づくりにも参加させてもらい、ホーム自体を緊急時支援の対象者として登録させてもらっています。	消防署の協力と指導を得て、年2回昼夜を想定した避難訓練を実施し、2階の利用者の救出方法について具体的に消防署と確認を行う等、課題を解決しながら訓練の精度を上げる取り組みを行っている。また、町内の災害対策に管理者が計画作りから参加し、ホームも支援体制の中に組み込まれている。非常災害時に備え、非常食、飲料水の準備もある。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への言葉かけについては、毎朝の朝礼時や毎月のカンファレンスの中で日頃の言葉かけについて振り返り、話し合いをしています。	職員は、利用者を家族のような関係の中で敬愛し、人生の先輩として尊敬しながら、プライドや羞恥心を損なわない介護サービスを実践している。また、個人情報の保管場所の配慮や職員の守秘義務の徹底も図られている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるような雰囲気作りをしています。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中には大まかな決まった流れはありますが、その日の入居者のそれぞれの状態にや希望を聞きながら、その人のペースにあった一日が過ごされるように支援しています。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は本人が希望されるお店等がありませんので、職員が散髪しています。また、冠婚葬祭や歳時の時に希望のある方に関しましては美容室等への付き添いを行っています。服装にかんしては、TPOに応じて、本人の希望を聞きながら決めています。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは一週間分を入居者の希望や好みを取り入れながら、バランスを考えておおまかな献立をたてています。また、その日その日に、入居者の意見や状態を聞きながら臨機応変にメニューの変更が出来るようにしています。また、食事の準備や片づけ等は、一人一人の能力に合わせて出来ることは職員と一緒にしています。	利用者一人ひとりの残存能力を活かし、キャベツのみじん切り等のごしらえに参加してもらい、包丁がまな板を叩く小気味良い音がリビングに響いていた。テーブルの上に置いたホットプレートで焼いたお好み焼きを、賑やかな会話の中で全員で食べる様子は楽しそうであった。また、職員は時間がかかっても利用者の食事を見守るなど、一人ひとりの状態に合った支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状態(既往歴・身長・体重)や、その日の状態等を把握し、その人にあった栄養摂取や水分確保の支援を行っています。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを実施しています。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時や身体状態の変化があった時には約1～2週間程度で本人の排泄パターンを把握するようにしています。また、一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行い、排泄の失敗やオムツの使用をへらし、排泄の自立にむけた支援を行っています。	基本はトイレでの排泄を目指し、職員二人で介助する場合もある。優しい声かけや早めの誘導で、自立に向けた排泄の支援をしている。また、失禁パンツを購入したり、利用者一人ひとりに合わせた色々な方法に取り組み、オムツの使用量が減る等の成果が見られる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の生活の中で、散歩や家事手伝い・体操により身体を動かす事や、食事(食物繊維・水分量)に注意をしています。また、排泄チェック表で排便パターンや状態を把握し、主治医や看護師との協議のうえ、服薬にて排便コントロールを行っています。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日の入浴日を設定しているが、月～土曜日まで何時でも入浴可能な状態にしています。	入浴は、基本的には1日おきであるが、毎日入る事も可能である。利用者のその日の健康状態、気分に合わせて、日時をずらしたり、足湯にしたり、入浴剤の使用等、利用者一人ひとりの入浴が楽しい時間になるよう支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状態を把握して、休憩時間や、就寝・起床時間を考慮しています。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法容量については、主治医や薬局の薬剤師からしっかりと説明を受けています。また、一人ひとりの薬の説明書を個人記録ファイルに綴り、職員全体で共有できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や出来る事を把握し、調理補助や洗濯物たたみ、掃除等をしてもらい、毎日張り合いのある生活を送れるように支援しています。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や入居者の状態にあわせて、近所の散歩を行っています。また、花見や夏祭り、バーベキュー会、植物園ピクニック等外での行事を企画実施しています。	ホーム周辺の散歩や季節の花見、ピクニック等、利用者の残存能力に合わせ、少しでも戸外で過ごし、季節を感じてもらえるよう取り組んでいる。また、ホームの前でバーベキューをしたり、毎月のドライブ等、家族にも声かけしながら、屋外での楽しみ事の支援をしている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談のうえ、少額で本人の希望があれば、本人が所持出来るようにしています。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	24時間電話の利用は可能にしています。また、年賀状等のやりとりの支援を行っています。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの周囲には季節の花を植え、ウッドデッキを設置し、気軽に外に出れるようにしています。また、台所からは調理の匂いや音を感じれるような家庭的な雰囲気作りをしています。	ホームの周りには季節の花が咲き、家庭菜園が作られ、ウッドデッキでは外気に触れる事が出来る。民家を改造した家庭的な雰囲気の玄関からリビングに入ると、利用者と職員の笑い声が聞こえ、重度化傾向にある利用者とは思えない楽しい会話のやり取りの中で、洗濯物を畳んだり、料理の手伝いをしたり、リビングに出入りする猫に声をかけたりしながら時が流れ、温かい雰囲気の暮らしが何える。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが入居者同士の語らいの場になっており、各居室へは各自自由に行き来出来るようにしています。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備品は全て、本人が使用していた使い慣れたものを自由に持ち込んでもらうようにし、本人や家族と相談しながら居心地よく過ごせるようにしています。	居室は、利用者の使い慣れた家具や小物、記念写真、大切な物等を、家族の協力で持ち込んでもらい、安全との両立を考えながら、居室が利用者にとって、穏やかに暮らしやすい場所になるよう関係者で支援している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや机やソファ等の配置を工夫して、出来る限り自立した生活が送れるようにしています。		